

## 支部のトピックス(北海道支部)

### 社会資本の体験見学会の開催

北海道支部では、一般市民の方々に社会資本整備の必要性や建設コンサルタントの仕事について理解を深めてもらうことを目的に様々な活動に取り組んでおります。

その一環として平成23年度より、夏休み中の小学生を対象に「社会資本の体験・見学会」を開催しています。支部の担当委員が引率して、いくつかの社会資本施設を施設関係者の説明つきで見学してもらい、その役割、必要性について学んでもらうものです。

さらに、見学を通して感じたこと、考えたことなどを後日レポートにまとめて提出してもらい、協会本部が実施する「社会資本体験レポートコンテスト」に支部を通して応募しています。

平成29年度は「おたるみなと資料館」、「北海道横断自動車道 朝里川橋工事現場」を見学対象に選定し、札幌市篠路西児童会館とタイアップして、約40名の参加者により開催いたしました。

参加した子供たちは普段接することの少ない施設や実際の工事現場を担当委員と一緒に熱心にメモを取りながらとても興味深く見学していました。

また、見学の合間には当支部で作成した広報冊子「あなたのまわりにも ～建設コンサルタントのごと～」を用いた出前講座を開催し、人々と社会資本との関わりやその整備に関わる仕事について分かりやすく解説しました。



おたるみなと資料館



北海道横断自動車道 朝里川橋工事現場

本部のレポートコンテストには参加者全員がレポートを応募し、昨年度に引き続き当支部から優秀賞が選ばれています。

参加者からは非常に好評を得ており、次年度以降も引き続き開催していきたいと考えています。

支部のトピックス(東北支部)

「TOHOKU 復興から創生そして近未来への提言」を发表

東北支部では、平成30年6月13日開催の発表会にて、東北地方の自立的な発展を目指して策定した「TOHOKU 復興から創生そして近未来への提言」を发表しました。この提言は、地域経済の活性化や、安全・安心な社会の実現のために必要とされる高品質な社会資本の整備の必要性について取りまとめています。

建設分野に限ることなく、農林水産業、経済・産業、環境等の多方面の分野を包括的に含んだ内容を取り扱いました。

また、この提言は、2030年度末を目標年度とする【第一部 創生編】と2050年度末以降を目標年度とする【第二部 近未来編】の2部構成としています。

第一部 創生編では、「東北地方の暮らしと社会の現状把握」、「自立的発展に向けた課題を抽出」、「その課題の解決のための15の目標の設定」、「目標を実現するために必要な10のインフラ事業」、そして「具体的な40のプロジェクトの提案」をしています。

第二部 近未来編では、2050年の社会情勢を推察した上で、2050年のインフラ整備のありかたを検討しました。

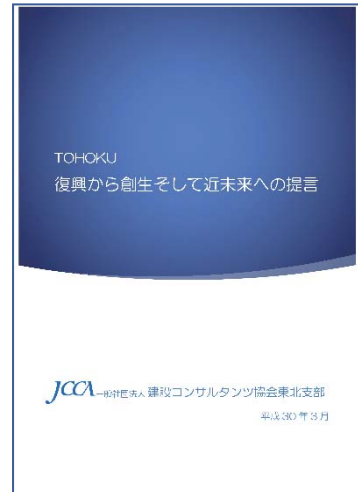
2050年の社会情勢として、①人口減少と高齢化、②インフラの老齢化と更新時代、③自然災害リスクの増加と防災への取組、④第1次産業の6次産業化、⑤気候変動がもたらす自然環境の変化、⑥ICT技術の成熟と低炭素社会化の6項目を重要なテーマとして選定しました。

これに基づき2050年のインフラ整備のあり方を若手技術者の独創性をもとに、①高度化された土木技術の活用による交流促進、②防災に関するソフト・ハード・経験の世界展開、③“モノを壊す”から“モノを使う”インフラのリサイクル、④広大な農地を用いた研究拠点やエネルギー供給基地の整備、⑤東北らしい都市空間整備とグリーンインフラ整備の5項目を提案しています。

以上の提言は、国土交通省や地方公共団体への紹介を予定しています。

さらに、マスコミ（一般紙、専門誌）にも紹介しました。

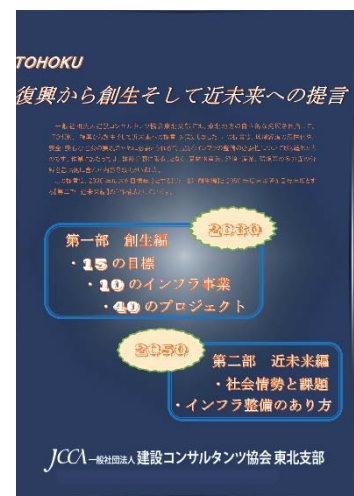
紹介に当たっては、提言書の他にパンフレットも作成し、主にパンフレットを中心とした説明を行いました。



THOKU 復興から創生そして近未来への提言



人間味のあるランドスケープ



THOKU 復興から創生そして近未来への提言  
パンフレット